

羽曳野市立幼稚園・小学校・中学校一貫教育基本方針

平成23年3月
羽曳野市教育委員会

[羽曳野市立幼稚園・小学校・中学校一貫教育基本方針]

1 幼・小・中一貫教育の意義

羽曳野市では、市立各幼稚園・小学校・中学校及び教育委員会と保護者や地域住民が協働し、幼稚園、小学校、中学校における11年間の一貫教育を推進します。

現在市内の各校園では、これまでも幼稚園・小学校・中学校がそれぞれの目標を設定し、様々な方法と内容で連携や協働の取り組みを進めてきました。

この連携に「幼稚園・小学校・中学校一貫教育」（以下幼・小・中一貫教育という）という明確な方針を示し、中学校区の各校園と保護者や地域住民が、めざす目標を共有することで、これまで以上に学校・家庭・地域が協働して子どもたちの育成に取り組み、教育の質的内容と地域の教育文化を高める効果が期待できます。

幼稚園・小学校・中学校の縦のつながりを「たての一貫教育」、学校を支える家庭・地域が協働した地域ぐるみの横のつながりを「よこの一貫教育」として、本市の「幼・小・中一貫教育」を推進していきます。

近年の社会環境の急激な変化は、学校教育・家庭教育・地域教育それぞれに様々な課題を生じさせ、校園や家庭・地域での様々な意欲的取り組みにもかかわらず、子どもたちに学習意欲の低下や家庭学習習慣の未定着、学習上のつまずきをかかえたままでの進学・進級など、様々な問題を起こさせてきました。

私たち教育委員会と校園は、幼児期から学童期そして青年期に至るまでが、将来子どもたちが社会生活を送る上で必要な「生きる力」を身につけていくための重要な時期であることを認識し、幼稚園教育と義務教育の11年間の中で、めざす子ども像を共有し、学習内容や指導方法のあり方を一貫させ、幼稚園・小学校・中学校間の円滑な接続と各学年間の連携を一層図る必要があると考えています。

これからの羽曳野市の教育では、幼稚園・小学校・中学校の教職員が、子どもの将来像を中学校区単位で共通認識し、子どもたちがその個性や持てる力に応じて、無理なく次のステップに移行できるよう、これまで各校園がそれぞれ独自に策定してきた教育課程を有機的に関連付け、生きる力を育むキャリア教育を柱にした「たての一貫教育」として11年間のカリキュラム（指導計画）を構築していくものとします。

またそのカリキュラムを基本として、現在の幼稚園・小学校・中学校区における地域住民や保護者との「よこの一貫教育」を大切にしながら、各中学校区全体で目標を共有し、園児・児童・生徒の交流や教職員の交流、保護者や地域の人々との連携を図りながら、羽曳野市の魅力ある一貫教育を推進していきます。

2 指導目標と育てたい園児・児童・生徒像

羽曳野市の学校園教育の指導目標は、「確かな学力を身につけ、豊かな心と健やかな体を持った『生きる力』を発揮できる子どもを育成する」こととしています。

幼・小・中一貫教育では、この目標のもとに、幼稚園教育2年間と義務教育9年間の一貫した教育を通じて、自ら学び、自ら考える力や生涯にわたって学び続けようとする意欲・態度などを養い、園児・児童・生徒に確かな学力を定着させ、豊かな人間性を育みます。このことを基本として、各中学校区単位でそれぞれの特色や地域性をいかながら、育てたい園児・児童・生徒像を設定し、共有化する中で具体的な指導目標を定めます。

3 幼・小・中一貫教育の特色

幼稚園・小学校・中学校の強固な連携を図り、地域住民・保護者と協働して学校園づくりを進めます。

羽曳野市がめざす幼・小・中一貫教育の特色は、幼稚園教育2年間と義務教育9年間を通した一貫カリキュラム（指導計画）のもとに、幼稚園・小学校・中学校間の園児・児童・生徒や教職員の連携・交流に重点を置いた「強固な連携」を図ることにあります。

また、幼・小・中一貫教育を根底から支える力として、保護者や地域の方々との連携・参画があり、この積極的連携・参画を力として、地域に根差し、地域から愛され誇れる学校園づくりを行います。

このように、幼稚園・小学校・中学校間の連携・交流を深めるとともに、地域住民・保護者の積極的連携・参画を得ながら、学校園においては、基礎・基本の確実な定着と個性・能力の伸長を図る学習活動を充実し、家庭においては、しつけとともに道徳心の育成や家庭学習の定着を推進し、学校園・地域住民・保護者と一体となった地域における教育文化の創造を進めます。

4 幼・小・中一貫教育で期待される効果

子どもたちの確かな成長と学校園・地域の連携の輪の広がりが期待できます。

幼・小・中一貫教育においては、次のような効果が期待されます。

- 幼・小・中で一貫した教育を行うことで、11年間を見通した目標を持って子どもたちを育てる指導ができ、子どもたちの「生きる力」の育成がより一層確実なものとなります。
- 各校園の異学年間や幼稚園・小学校・中学校間での異年齢集団による活動、地域社会とのかかわりの中で行われる体験活動などを通して、豊かな人間性や社会性をはぐくむことができます。
- これまでそれぞれの幼稚園・小学校・中学校単位で培われてきた学校と地域・保護者と

の連携を維持しながらも、中学校区という大きな位置づけの中で、地域ぐるみで子どもたちの育ちを応援していただく体制づくりを進めていきます。また、それぞれの学校園だけでは解決することが困難な課題に対しても、より効果的に対応することができるようになります。

以上のことを基本方針として、これからの羽曳野の幼・小・中一貫教育を推進してまいります。